

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【公開番号】特開2009-240419(P2009-240419A)

【公開日】平成21年10月22日(2009.10.22)

【年通号数】公開・登録公報2009-042

【出願番号】特願2008-88319(P2008-88319)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 6 B

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月11日(2011.3.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技球が入球し難いまたは入球し得ない閉状態と入球し易い開状態との間で変移し得る可変部を備える可変入賞装置と、遊技球の自重により駆動されて初期位置から作動位置へ移動し得るとともに、初期位置から作動位置へ移動する途上で前記可変入賞装置の可変部に係合して該可変部を変移させるように、単独でまたは複数の部材で連動して動作するよう構成された可動部材と、該可動部材に係合して該可動部材を動作し得ないように初期位置に保持する係合部材とを備える遊技機であつて、

前記可動部材が、初期位置復帰用の錘により付勢されながら可動に取り付けられるとともに、前記係合部材が、係合方向に付勢する付勢手段により、前記可動部材に係合して該可動部材を動作し得ないように初期位置に保持する係合体勢に保持され、

前記可動部材が、作動位置にある状態から、前記錘の付勢により、前記係合部材の一部に当接し摺動することにより該係合部材を押しのけながら初期位置に復帰して該係合部材に係合されることを特徴とする遊技機。

【請求項2】

前記係合部材が、回動自在に軸支されて垂下され、錘によりほぼ垂下された状態に保持するように付勢され、側部には下側カム面が形成されていることを特徴とする請求項1に記載の遊技機。

【請求項3】

上記係合部材の側部に上側カム面が形成されていることを特徴とする請求項2に記載の遊技機。

【請求項4】

上記係合部材に、正面視概略山形状に上方に突出した係合突起部が形成され、上記可動部材の先端部に、漸次先端側方向に傾斜する傾斜面を有する係合凹部が形成されていることを特徴とする請求項2または請求項3に記載の遊技機。